日本フンボルト協会 2025年度第2回常務理事会 議事録

日時：8月1日（金）19時半から21時20分まで

形態：Zoom オンライン会議

出席者：縣理事長、高山副理事長（関西支部）、細野副理事長、田口正樹副理事長
井田 良、香田芳樹（関東甲信越支部）、岡林 洋、高橋宗五
ト部匡司（中四国支部）、遠藤 歩（九州支部）、広渡清吾（顧問）
事務局 関映子（合計12人）

欠席：居城邦治（北海道支部）、守矢健一、鏑田武志、和田肇（中部支部）、山本敬三
須田利美（東北支部）、種村眞幸、櫻田嘉章（顧問）、伏木信次（顧問）

《議題》

（1）常務理事の所掌について（資料1）

→ 縣理事長より各理事の職掌についての説明があった。

（2）2025年度総会について（報告）

- ・6月14日（土）ハイブリッド方式で開催
対面式会場：京都大学本部キャンパス法経済学部本館 1階西端
「法経第11教室」
- ・参加者は 対面式18名 オンライン45名 講演会にはDAAD参加者10名も参加。

プログラム	1. 13:15-14:00	合同常務理事会・理事会 (2025年度の改選あり)
	2. 14:00-15:00	2025年度会員総会事務協議
	3. 15:00-16:00	講演会：吉田直紀 会員 (2024年度シーボルト賞受賞者) *現在、YouTubeに掲載中。
	4. 16:00-16:20	新理事会 (理事長、副理事長、常務理事の選任)
	5. 16:30-18:00	懇親会 (21名)

→「新理事会については別枠で開催した方がよいのではないか」という質問。

「総会に平行して新理事会を行った方がよいのではないか。」

「二年に一回の改選は妥当なのか？三年に一度の改選でもよいのでは？」という意見が出された。

（3）2026年度総会について・講演会について

ドイツ大使には講演を依頼済

→ 6月6日、7日を第一候補として、ドイツ大使のご都合が悪ければ、前後の週末に
ずらすことがありうる。

留学説明会は同時開催しない。場所はドイツ文化会館 OAG ホールが候補、20~30人用の部屋を予約し、ハイブリッドで開催の検討。

→ 新理事会開催のタイミングについて(2年後の課題)

総会終了後、すぐに新理事会を開催し、休憩の後、発表することを検討する。

(4) 日独共同研究奨学金について

- 今年の採用状況報告 → 5件の応募から2件採用。

課 題： 日本人女性のキリスト教改宗と規範性の形成：女性のグローバル法制史

(1540年代－1630年代)

課 題： 月面探査機材料への帯電粒子の付着特性

8月半ばにUrkundeを授与の予定。奨学金は日本人共同研究者を介して、渡す予定。

- ドイツ人研究者の正確な情報、ドイツでの勤務先などの情報を得るべきとの指摘があった。
→ 委員会で検討。常務理事会としては従来の情報内で審査してほしい。

●2026年度奨学金選考について

→ 募集開始は10月(新基金の募集と同時)選考委員は6名、今後依頼する。

(5) 伊藤荒川基金の募集の進め方 (資料2)

すでに200万円のご寄付が納入されている。

7月9日にSchildtさん、Lieblangさんに縣理事長がZoomで内容の説明をした。

直近の帰国者への協会加入要請の際に、助成金のお知らせ

過去5年間(2021年以降に)の帰国者に対して助成金のお知らせ

- 該当者が多くないので、2020年以降に拡張し呼びかけた方がよいのではないか。
ただし時限的に。該当者19名(現会員7名、会員加入予定者12名。)
またニューズレターによって会員全員に告知する。

審査委員6名は確定している。

(6) 2025年度のドイツ研究奨学金説明会の開催について (資料3)

*合格者が増えているという報告がフンボルト財団Lieblangさんから届いている。

*新事務総長についても記載されている。

★鏝田先生より開催日程は未定とのこと。

(7) 支部活動について (各支部の今年の予定について)

(北海道支部より)

「2025年10月31日(金)に北海道大学内でドイツ留学説明会とともに支部総会を開催する予定です。」

(中部支部より)

1. 幹事会開催(2025.7.4)本年度の活動方針を相談

1. 25年度総会 11月頃開催予定

ドイツ在外研究報告 報告者(予定): 斎藤晃(名古屋大学未来材料・システム研究所教授) 総会、懇談会

1. 上川内あずさ先生(名古屋大学理学部生命理学科教授)公開講演の件

2025年度猿橋賞受賞「虫脳における聴覚情報処理原理の解明」 現在交渉中

(東北支部より)

1) 2024年度は東北支部総会を開催できなかった。

2) ドイツ留学説明会のアナウンスを東北大学全体に通知した。

3) 2025年度は支部総会を開催するとともに、延期されていたフンボルト賞受賞者、大塚孝治先生(東大名誉教授)の特別講演会を開催したい。その後、12月6日(土)に総会開催決定。

- (関西支部より)来年2,3月に支部総会を開催したい。
- (関東甲信越支部より)10月に留学説明会、2026年3月に支部総会と講演会を開催予定。
- (中四国支部より)ニューズレターを発行している。
- (九州支部より)DAADとの共催で総会、講演会、懇親会を開催する予定。

(8) 日本フンボルト協会の会計について (事務局より)

《年会費の支払い状況》 ゆうちょ銀行に335名 三菱UFJ銀行に57名
みずほ銀行に36名、三井住友に38名 合計466名が支払い済。
会員数が1,306名であり、納入率は35パーセント

- 会員の中には、HGJがフンボルト財団からの運営補助を受けていると誤解している会員がいるという指摘があった。実際は補助などないことを明言し、会費納入を要請する。そのためにこれまで開催した行事、事業のリストを作成して、ニューズレターとともに知らせる。年会費の督促も記載する。

(9) これまでのHGJの行事のまとめ作成中 (縣理事長)

12年は記念年なので、これまで2013年以降のHGJの軌跡を、表形式にて、総会・特別講演会、オンライン講演会、留学説明会、日独共同研究奨学金、伊藤荒川基金助成金、各支部活動、Humboldt-Kolloquium、Humboldt-Kolleg等に関して、時系列で一覧表を作る。ここで、HGJの主活動を振り返り、改めて年会費 納入の重要性を強調し、協力を強く要請する。

- ホームページ上に掲載すると同時に、ニューズレターと別途PDFを送信することが提案された。それと平行して、理事から、「前便で郵送を終了したと公表したが、ダイレクトメール方式を今一度再開して、この行事实績を会員に送付し、会費の納入を要請することはできないか」との提案があった。デジタル化前の最終回として、ニューズレターと行事リストを郵送することで合意した。

(10) その他

●今後のZoom討論会について (高山副理事長)

- ・生成AIに関するZoom講演会
2024年10月12日に実施した第3回に続き、年度内に1-2回の講演会を企画する。

- 理事から、「会員以外の聴講希望者にも、会員からの推薦によって聴講を許可してきたが、今後はより自由に聴講できるよう門戸を開けないか」という提案があった。これに対し、会員中心の質疑応答形式とウェビナー形式の両方が可能であるとの回答があった。
講演会の聴講枠の拡大については今後検討。

●現在のところ以下の通り、予定されているオンライン講演会 (AIシリーズ)

- ・第4回「AIと著作権」 2025年9月6日(土)14時から
登壇者1:潮海久雄 会員(筑波大学)
登壇者2:狩野芳伸氏(静岡大学)
司会:高山佳奈子 会員(京都大学)

- 約一か月前に案内を発信する予定
- その後、9月13日開催に変更となった。

- ・第5回(2025年度後半に予定)「AIと文化財」
登壇者1:高野紗奈江氏(京都大学)
登壇者2:河野俊行 会員(九州大学)
司会:高山佳奈子 会員(京都大学)

●2025年度のシーボルト賞受賞平野圭一先生について
(会員になっていただく、そして講演会の予定)

→中部支部での開催を高山副理事長が和田支部長に提案しているが
中部支部の開催か本部の開催か検討する。和田先生に今一度ご意向の確認する。
→その後、和田支部長との協議の結果、本部開催とすることになった。

●ニューズレターの今後のデジタル化について

→2025年度号はこの常務理事会の結果も掲載して、メールで配信予定であったが、
今回は最後として郵送に切り替えることになった。上記(9)を参照。

●長期未納者の扱い 12月の常務理事会で検討する

●伊藤真前理事長の一周忌の会として、筑波大学同僚の方々が開催(6月21日)
夫人と息子さんが参加され、成増のレストランにて開催。
事務局として、参加してきた。

●次回の常務理事会開催日程と時間

- 拡大評議員会を開催することが提案された。これに対し、
「理事は含まれないのか？ 理事も含むべき。」
「評議員は無役なので、交流の場を設けたい。」
「懇談会なのか、常務理事会のあり方を真剣に話し合う場なのか。」
「これまで評議員会を開いたことがない。」
- 評議員の職責を常務理事会で規定しておかなければ、会議にはならないのではないか。
という意見が出された。結果、次回の常務理事会では拡大評議員会は開催しないことが
決した。
- 次回常務理事会 12月19日(金)18:30-20:30(予定)
議題: 長期未納会員への対応。評議員会の位置づけ。

=====

以上